

寛永諸家譜

橘氏

166

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數		186 (166)	
函號	特	76	1



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM Kodak





甲斐庄

會田

長谷川

紅林

山田

野尻

松井

淺井

黒田

福留

大平

牧

井関

山中

三好

寛永諸家系圖傳

橋姓

人皇三子代
敏達天皇

難波親王

大俣王

栗隈王

美奴王

淺草文庫

公材 きんき

母八馬頭博風王女 はちまとうのうぶかぜのきみ 在江守 あゐのり 従之位上

好古 こうこ

大納言正三位 おほのなごん 少内記 すくない 文章博士 ぶんしょう

為政 たけまさ

大和守 やまとのり 従之位上

行資 ゆき

伊豫守 いよのり 従之位上

成経 なりつね

従之位下 しゆじゆいげ 皇后宮亮 みぎのみやのり

兼遠 かねとほ

従之位下

威仲 いぢゆう

掃部助 さうぶのすけ

正遠 ただとほ

返之位上

正成 ただなり

播津河内木之守大史判官 五門若御尉

正行 ただゆき

帯刀 おびたぎ

正義 ただよし

左馬頭 さまのうし

正考 ただかう

正威 ただい

大坂西法入道 三号

威信いしん

威宗いそう

威秀いしゅう

長成ちやうせい

隆成りゆうせい

正虎せいこ

甲斐庄かいしやう

甲斐庄かいしやうの橘たちばな正成せいせいが裔いなり家傳けだん紛失ぶんしつ
 其その後のちあり其その世系よこせと志しふふとこと
 わるるに官本くわんぽん乃系圖けいず正成せいせいのち
 教代きやうだいと記しと志しれども誰たれ某あつ先祖せんぞる
 其その後のち志しふふあり官本くわんぽんとりつと
 其その首くわんりありふふの甲斐庄かいしやうと
 その志しふふと志しふふと

集

備前

河内きよの居ぢ候うと

心流

兵太衛門

生國河内うぶくにわのち

國家駱こくか礼らいよりこくこ本ほん河内わのちとと去こ

遠列えんりつ演松えんしょうよりゆききとと去こ

大指現おほさしげんよりはたた人ひとををくくししりりとと去こ

小田原おだわら御陣ごじんよりこ子こ正房せいぼうとと同どう供奉くほう

安長元年八月あながちねんよりは月つきよりは病びょう死し歳さい六十三むそく

正房

兵太衛門

大指現おほさしげんとと去こ

名徳院なとくゐん殿でんよりは津つ人ひとををくくししりりとと去こ

小田原おだわら御陣ごじんよりこ子こ正房せいぼうとと同どう供奉くほう

大坂冬夏おほさかふゆ御陣ごじんよりこ子こ正房せいぼうとと同どう供奉くほう

ををくくししりりとと去こ

資勝しち

庄七郎 中國回あ

大権現より流るる

資重しち

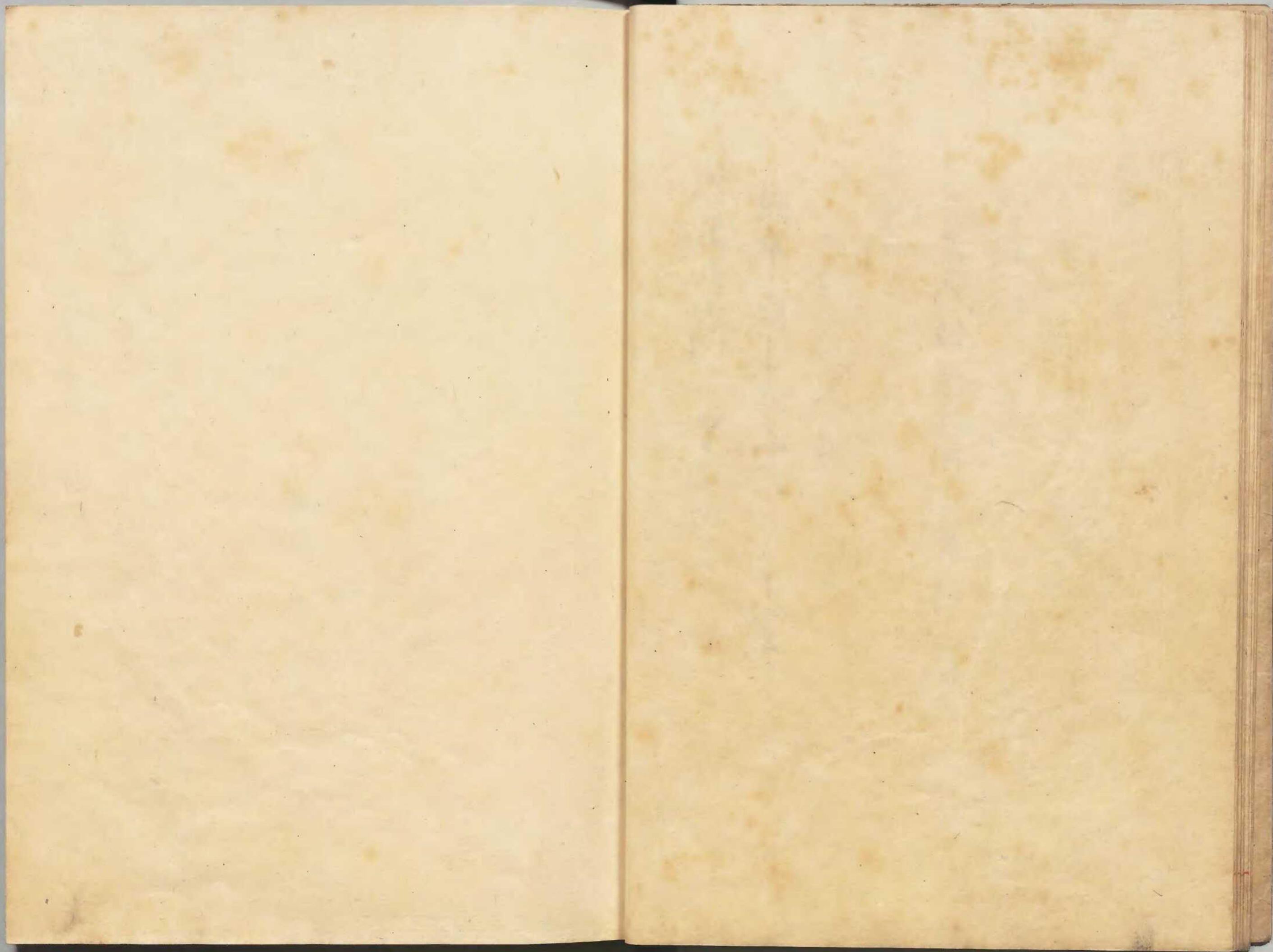
七郎右衛門 中國回あ

資信しち

小丸衛門 中國回あ

將軍家より流るる

家乃紋丸の内より采竹しち三本しち



東

長谷川

家傳いえでん一い先えん祖そ教けう代だい義ぎ濃のよの位い一いて
楊やう姓せい此こゝ未ま流りゅうなりなりととふふ取とりり今いま其その
家か説とよよととここひひ家か一い載のり

越中守

甘國英濃

母はは友とも義ぎ龍りゆう一いつつふふ

重則 しげのり

又一 生國同あ
信長 ふた 一 信ふ

重勝 しげかつ

次右衛門 生國同あ
織田 おだ 之 右 信考 ふた 一 信ふ
元榮 もとえ 法石

重成 しげなり

甚矣 しげ 生國同あ

信長 ふた 一 信ふ
之 黄母 きむ 衣 い 此 こゝ 流 なが と なる のり

大指現 おほさし 一 信ふ

至長 しげ 一 年 とし 関 せき 之 京 きやう 沙 さ 陣 じん 一 信奉 ふた
翌 あした 手 て 内 うち 加 か 増 ぞう 添 そへ 紙 し 法石 しやうせき 守 しゅ 清 せい

重改 チカキ

元高共来

生國山城 ナマクニ

元和九年 ワニノ

右徳院殿 サキノ

寛永六年御番と決む

同九年

將軍家より決む

重辰 チカキ

長六郎

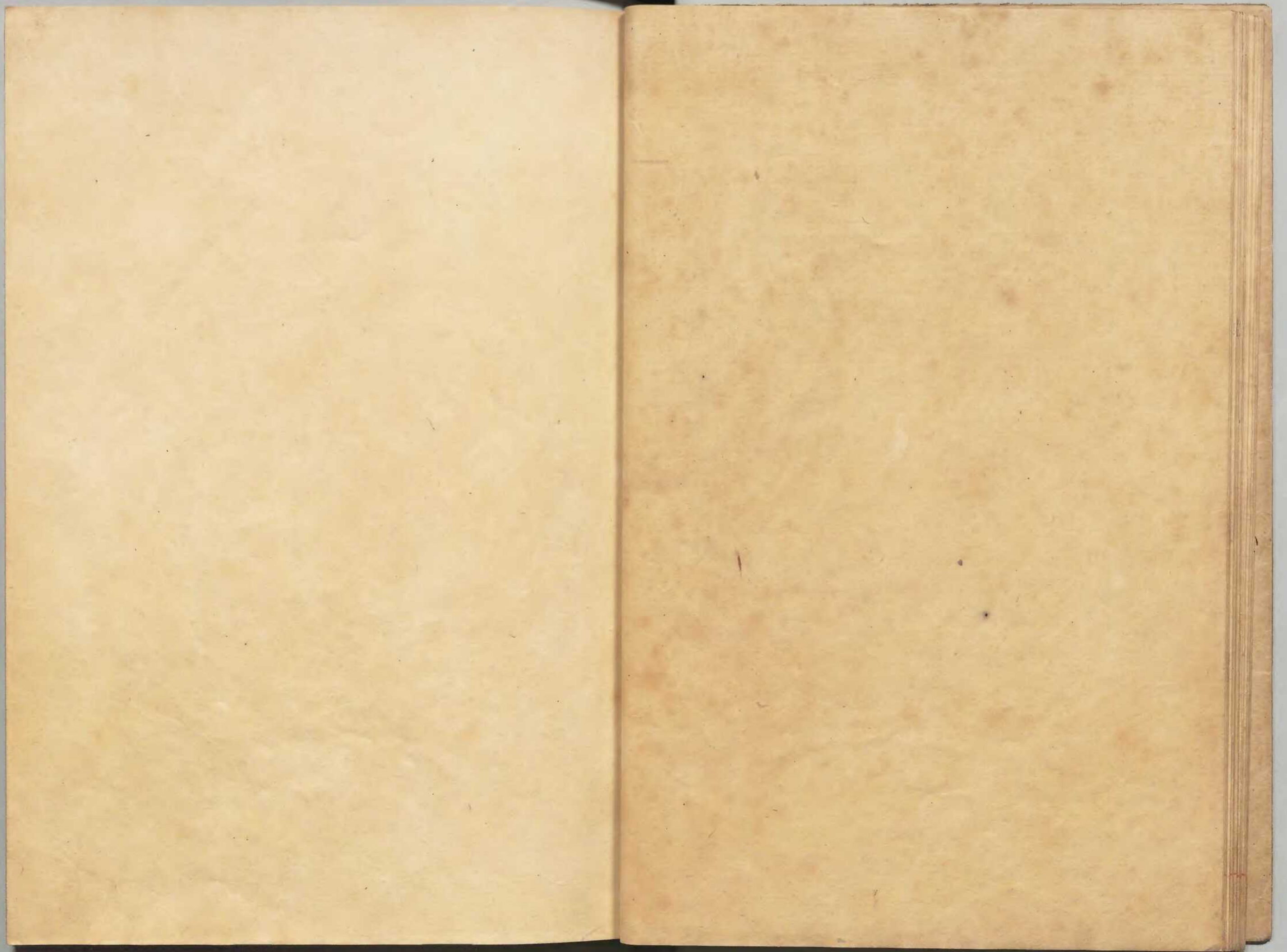
生國後河 ナマクニ

寛永三年

將軍家より決む

小納戸此役と決む

家乃級 捨筋 イノ



● 集あつ

紅林こうりん

次郎じらう 次清門じせいもん 生國なまくに 堂どう 江え
今川いまがわ 義元よしたね 又また 清しみず 久ひさ

名流なりゅう

助六すけむす 郎らう

生國なまくに 同どう 前まへ

大須賀公高在清門よはふ
元龜元年埴川御合戦より伏奉
同之年味方原御合戦の時志す
たぐまらふ

天正三年長藤御合戦より伏奉
遠列後列よとひく武田信玄同
勝頼と

大指現御合戦乃に伏奉して度く
軍切ありうのころ

大指現濱松御還座の事記
命よ

うめて古浪濱松より修し時より領地
百貫文とたむり御判形とらざる

天正八年六月十日

大指現後府より湯治陣乃に伏奉
田中の城れあはれとすおのとき城陣
より歩卒をいさして鎧兜ととふ

ちかひとすよ

大指現大須賀公高在清門より命して

古卒とくはく是とをいひしを治
一番の池めぐりて是と遊捕を射あ
はち曲輪の門きこふといひく鉄炮
小あゝふ久世三日師ひうに小笠
丸をりりあきて砲の安否とふ吉治
といひく海をやく城の内よ入る
後又吉治鉄炮しこよあゝあ死を射
り二十二歳そのうち

大指現田中へ渡御乃とびとに是

則紅林のうら死の地をわこの終ふ後
西丸よりといひく中を流渡り命
して宣うく血印を染る家此古卒
お林よ先へ河ものをへといひく吉治
とくそ首十八級と付捕殺場よといひて
功あふ事十三度流死源の師小笠原
之師右衛門といひくと志すあり

貞直

助六郎 中園同前

二歳少く父よとてこれ大須賀おれた水門

お扱物せしむ

大信現関東津入おれこれ伯父守徳貞

助太承つとてしつとて湯一たてしつとて

そのうち忠長御より治ふ

寛永十二年

將軍家より治ふとてしつとて

同十三年依比とてしつとて

貞直

基在湯門 中園後河

寛永十二年

將軍家より湯一とてしつとて

同十五年より湯普治治しつとて

同十七年湯切来とたしつとて

家乃紋櫛

いんげんか

山田やまだ

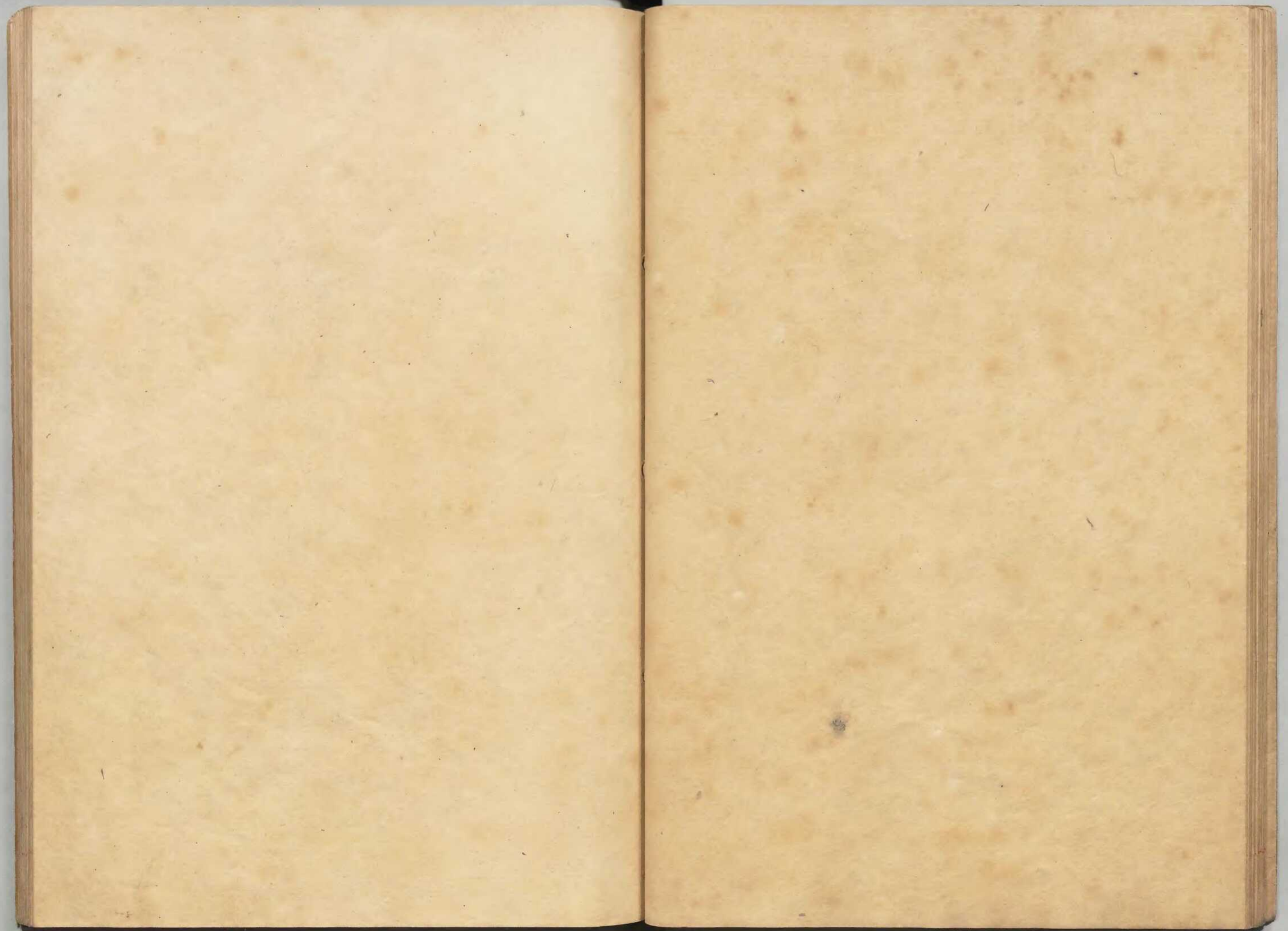
● 良次りょうじ

夫九衛門むね 甘國あまのくに

京極長門守きんごくのちやうもんのかみ 高者たかもの 一ひと 流なが 下した

良政りやうせい

越中守えちうのかみ 生石河原いしはら



大指現甲列先方の士をせり—芦田源七郎
をこらへ—素因志少—信列
—入るもふえ重もそ此一なり
去田に教度合戦と相列氏直大軍
と仲甲列佐列の間—陣元先
方の名北流と庭こし是よらるる
芦田小屋—引籠もぐに飢り
とよふ氏直と
大指現陣—たふうのち和後

そのゆり—氏直相列よゆれ先方
北土小屋と甲列よとひ
大指現—湯見—つる時り
向—志義の—感概—多ひ能比
とそふ
去後 杉せとうゆり今度小屋
よ籠—共栄田七郎—一
佐列飯沼の城と清江城中異儀
なく出さる氏直とすふら先方此

そのとくくはまはたしりし心同
玉松本小笠原信濃守いさむ内服
せし夜下の飯所りも張る城守
乃共池向いさむぎ我はい又勝利
と失つど

大権現のくけ城とすの志しる事

七年よとらふ

同十二年美田と征伐したまふ時
先方の土岩尾乃城とせぬ落し飯所

乃城りゆ

日十二年小田原湯陣よ修守今迄

大権現岡東り福く刀ふ時り元重

ちくぐいしつう東り位と

七十二歳少く病死 法石道院

元継

六右衛門尉 生國甲斐

交長五年奥列湯陣よ

白漣院殿よきこひたきりり字致文

よきこれ 白鳩をめぐり中山道

しり 御上流のとき休む

翌年甲列よきひく平領の地代

しり

同十九年大坂御陣のとき三列

長崎しり

大指現よ湯しり

戸田よ依るしり一長崎乃城を

しり

大指現堯津乃後

白漣院殿のお月せとけを向り甲府

の城を流しとじと十三歳少く病死

法名蓮浄

元清

六右衛門 生國氏亮

元和八年しりめく西島を流しとじ

のら たい 命めいよら た 忠長ちゆぢやう 御ごり
はふろのら み せ あ 上じやう 総すう
根ね 中ちゆう 村むらり ま じ ま 地ぢ ま ち ま ち

家乃級 丸の内うら 巴ま

野鹿の

● 吉景よし

徳兵衛とくへい

生國尾張いけにわ

信長のぶなが

吉正よしただ

九郎右衛門 生國尾張

秀吉ひでゆきははたふと十三じゅうさん之歳としよりして病びょう死し
法名清輪はうなみよ

心元こころもと

七共衆しちともしゆう 廿四山城にじゅうよっぺんやましろ

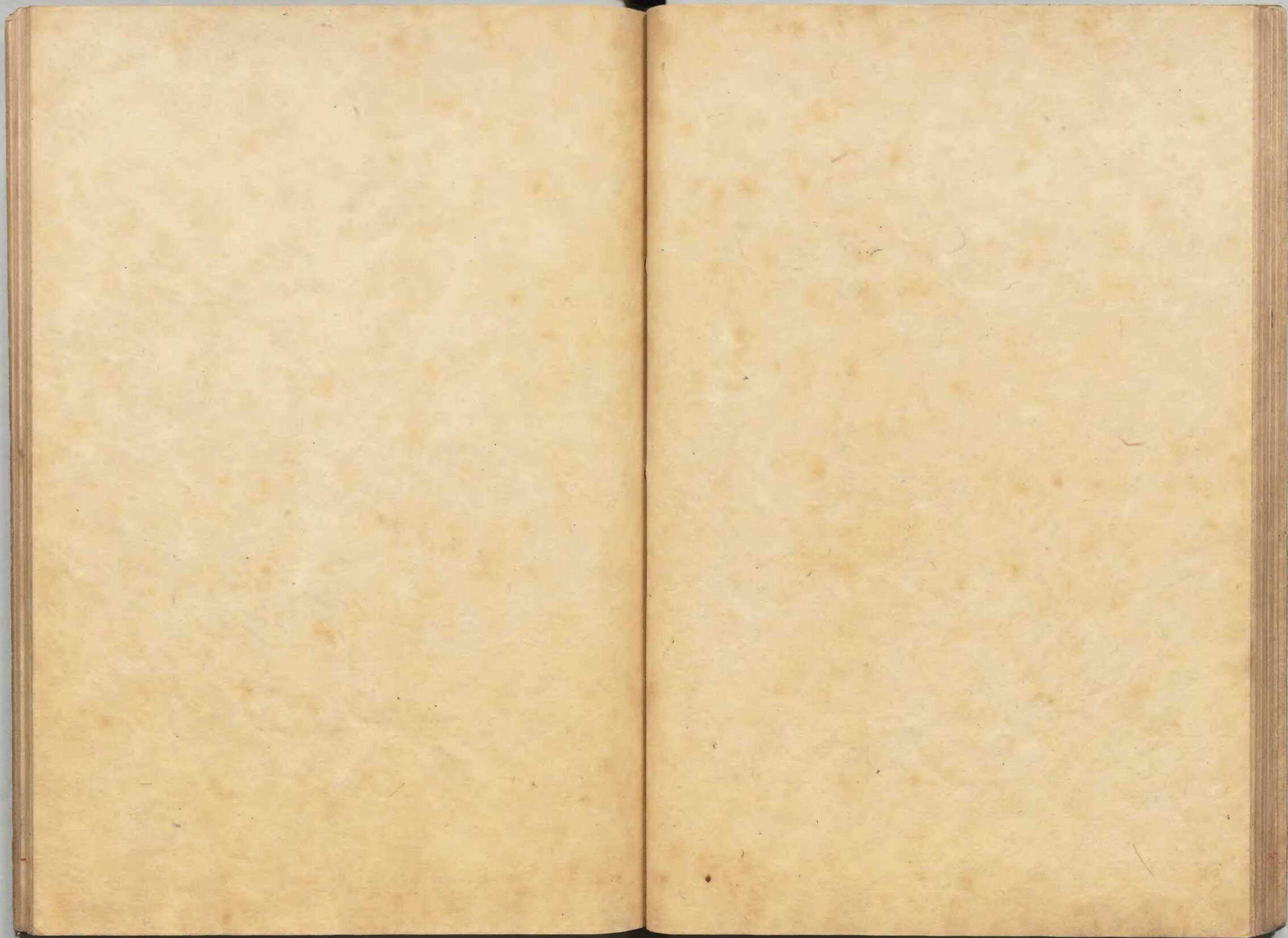
秀頼ひでたかははたふと大坂落城おおいさかおちじょうの夜よ

大権現おほいけんげんとよび

名徳院なとくゐん殿どの

將軍家しやうぐんけははたふとくまがたに

家の紋いへのかげ丸乃内まるのうちにと楯たて



● 宗保 しゅうほ

松井 まつい

越丸衛門 こゑまるゑもん

生國遠江 なまくにえ

今川義元 いまがわぎげん 元は もと 今川 いまがわ 忠切 ちゅうせつ あり あり 故 こゝろ 友度 ともど 威状 ゐじょう を を 今 いま 又 また 不持 ふもち 長 なが

宗直むねただ

白共衛 生國同家

大権現より侍人なり

天正十三年てんしゅうじゅうさんねん位列いれつ九子くし河原かはらより

とひひ合戦あはせの事こと紀進きしん能く我切わがきり

あり死しり御感状ごかんじょうとあり家

元和二年げんわにねん九月くがつ歳七十九としはやくふたにじゅうきゅう行て

死しに 法名ほふな源生げんせい

宗次むねつぐ

助左衛門 生國同家

大権現より侍人なり

安永十三年やすながじゅうさんねん二月にがつ三十一歳とせはさんじゅういちさいより

死しに 法名ほふな宗清むねきよ

宗利むねとし

白共衛 生國むねの位濃

右通院殿より侍之とくまつり大坂
御陣より供奉をのり

將軍家より侍之たぐまのり

寛永十二年四月歳二十六よりし
て死む

章宗

小長衛 生公上野

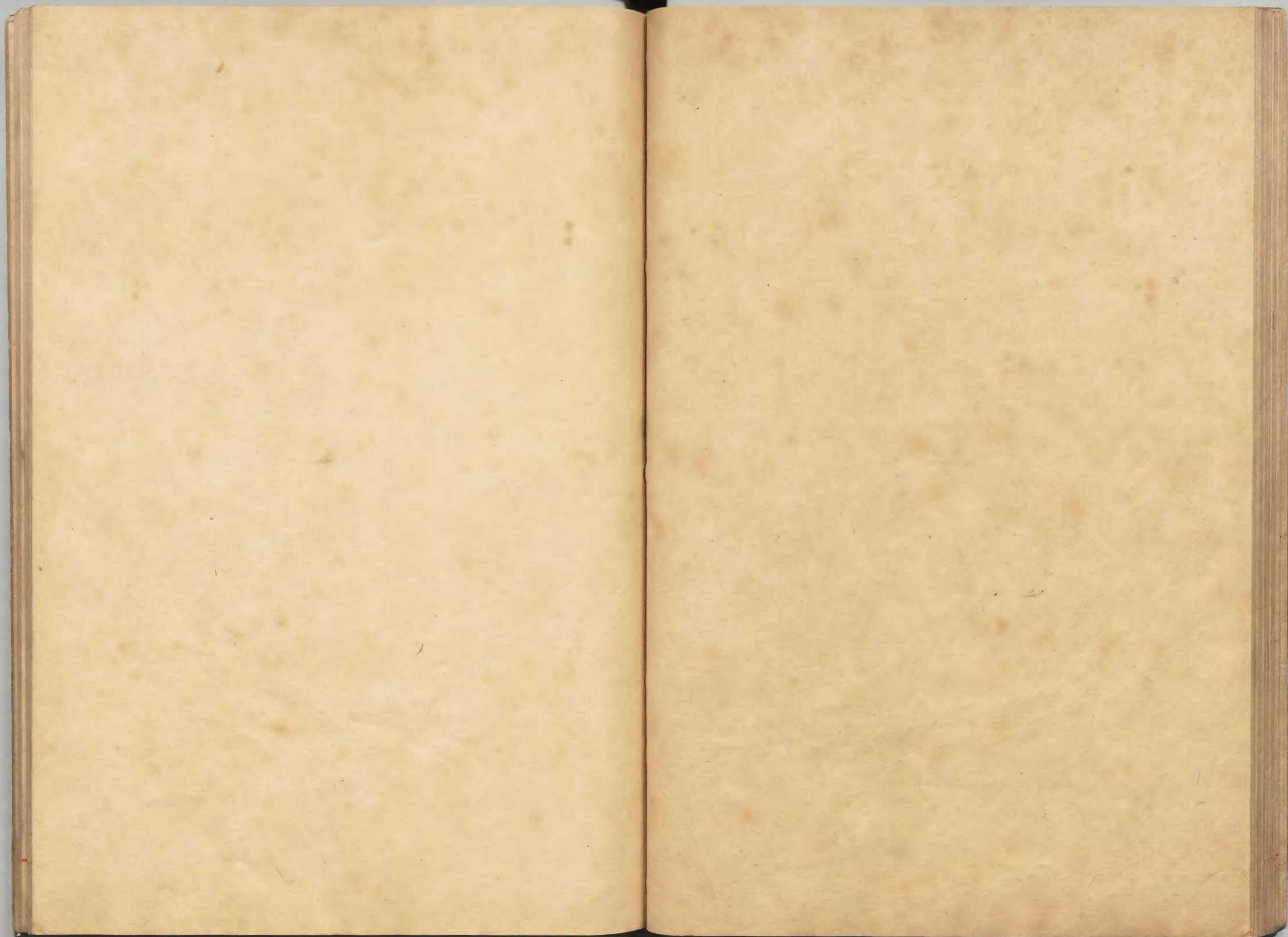
宗重

助左衛 生國同前

右通院殿の命をかりしり後河忠長に
よはふ後より侍之れ

將軍家より侍之たり西切米も侍ふ
寛永十七年より御番侍はじ

家乃致岩より根世



道忠

浅井

六ノ物 生國三河

三列ノ一とひくりしとこれ

大徳現小治ノ一とひくりしとこれ

永祿三年八月尾列捕殺る

とひくりしと長と今川義元合戦

義元終り自害と比附

大指現尾列大高比城人玉たふ

道忠路次の家内より三列

是乃城まうく修をくその忠切

にあり感懐の御書と給りあり

今一玉まうて取持と後後馬

同心十人をあつり道忠と小栗

仁右衛門三河をいあふ乃を竹織

と決りきり

天正十七年八月歳八十九あり

病死 法名祐春

右御書の写りい

と度依忠節幼未く自其お遠

可と授助を取く依任年をた

の尸居志也の如件

八月廿二日 元康御判紙

浅井六く胞よめ

道多 ちよと

六右助 生國同家

三列小 さんりゃくせう をひく

大現 おほいけん 一 いち 法 ほふ 人 ひと を を 御代官 ごだい官 と

佐付 さつけ 一 いち 法 ほふ 人 ひと を を 御代官 ごだい官 と

右徳院殿 みぎとくいん 一 いち 法 ほふ 人 ひと を を 御代官 ごだい官 と

三十人 さんじゅうにん を を 御代官 ごだい官 と

番 ばん と 勤 ごん

寛永 かんえい 十一年 じゅういちねん 七月十八日 しちがつじゅうはちにち 歳 とし 六十八 むそはち 小

く く 死 し 法 ほふ 名 な 宗 むね 清 きよ

忠 ちゆう 告 こ

清十郎 きよじゅうらう 生國同家 なまくにどおや 早世 はやよめ

忠 ちゆう 改 かい

八右衛門 やちゑもん 生國同家 なまくにどおや

右徳院殿 みぎとくいん 一 いち 法 ほふ 人 ひと を を 御代官 ごだい官 と

法心

寛永九年七月廿八日死

法名 法心 法名 法心

繩改

次右湯門 生國後河

元和二年正月

右德院殿より湯

同三年より御小姓組の書を勅

政道

寛永元年正月大番となる

厩共湯 生國下総

右德院殿より法心と書り大番と改む

寛永九年二月廿九日死 歳三十九

法名 法心

道次

馬共束 生國成苑
寛永八年正月

將軍家よりきりかへたきりかへし
同十一年より大番と改む

家の紋六本骨丸扇

● 廣網 ひろ かつみ

信濃守 しんのう ぬし

黒田 くろ だ

寛文は左友氏なり喜良父也網
が家とほく取^{かみ}り黒田と号^{なづ}し
梅姓^{うめ せい}り^し属^{ぞく}と左友乃氏譜^{しん ぶ}は
左友登^{しん ぶ}助^{のすけ}系^{けい}圖^ずり^しみえ^しなり

久綱 ひさな

半長秋 後監物よりあつたむ
後列今川小房と

光綱 みつな

上左衛門 生國後河
今川氏實小房一のり
大権現よりつと

直綱 なほな

元和六年十二月十日又七十三歳
少く死む 法名秀陳 しゅうちん

信濃守 生國生江

元和元年七月没之位下又叙と
寛永元年七月十九日二十歳
少く年と 法名高安 たかやす

用網

源太清門 生國後河

實父を名取年七郎用勝のち

平太清門と号をも名取石見守康用

が末子なりとあり

大獲現りしは之れ

たかせりしあり紀伊新宮々小治

ふ

元和元年八月二日用勝三十七歳

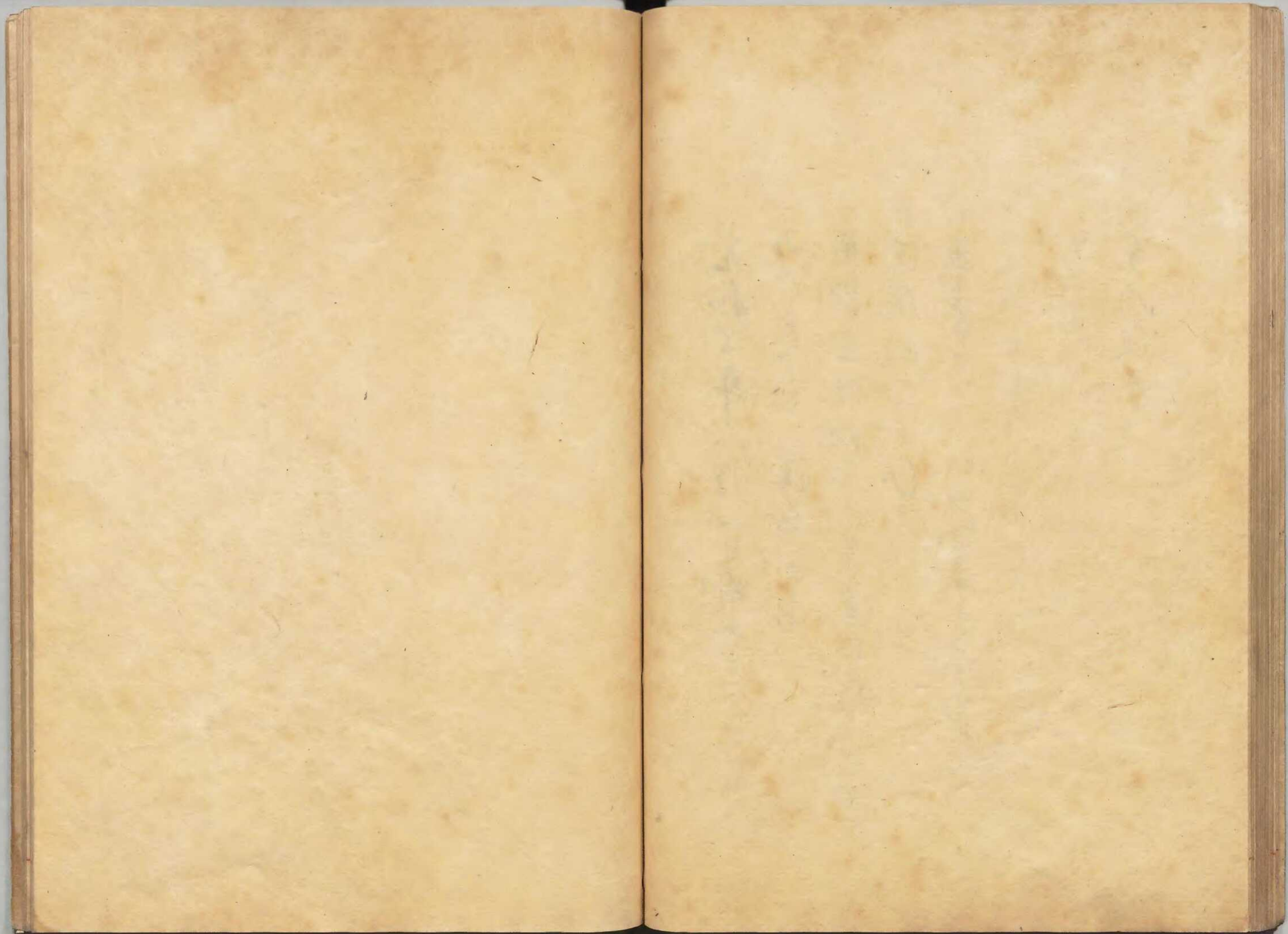
あく死し法名免園

用網並網治とほぎ黒田氏よりあり

白徳院殿とあり

將軍家よりほりしあり

家乃紋本丸



具

大膳たいぜん

具

き

早はや九く清せい門もん
生せい國こく尾お張ちやう
佐さ長ちやう一いつ法ぽう小せう

福ふく富ふ

秀吉及秀頼より此ふ

家貞

平尾清門生國持津

元和元年七月廿一日

此の

大指現より此の

家乃致摺

● 後家

大牟

岩室吉兵衛

生國近江

本氏ハ大牟なり江列岩室より

取リ岩室と号す

義輝より其之相水澤正教送の時討

死す時より十一歳

家次

上野介

生國同家

父後家より死の後に列甲領より出

右一右氏を用大平少号を討て

柘より出でて織田信孝より討て

害よりありて後又甲賀より出居

うのち

大信現より湯見一たてり家

後堅

角右衛門

生國同家

父と同居孝よりつゝ信孝家より

ありてのち父とたて甲賀より出居

右中村式部少輔より甲賀郡を

領す時後堅より九鬼大隅守より

属し後池田伊豫守より属し

青山播磨守の宅に

所々

文禄元年ぶんろくねんありて

右徳院殿とくゐん一ひと取湯と一ひと近侍ちかじ一ひときく

まゝ

安長やすながの年とし景勝かげかつを征せい一ひと孫まご時徳ときとく

奉ほう一ひとくく守部しゅぶ文ぶんよよ少すく時とき徳とく

いいくく江別えべつよよ付山つきやま景かげ意いとと大だいにに中ちゆう

の一ひと揆けいととおおここししとと白しろ銀ぎん相さう織お織

ホホとと知ちりり甲か負およよおおりり家か

大坂おさか友とも沙さ陣じんのの儀ぎ奉ほうをを流ながしし夏なつ御ご

陣じんよよ坂さか湯ゆおお母ははももおおにに先まへ之の言こと名な一ひとて

別わか血ち流りゅう成なり物ものく

右徳院殿とくゐん乃すなは御ご前まへよよ儀ぎ一ひと沙さ麿まろ詞ことばを

かかくく時ときににたた成なり血ち流りゅうををりり川がはとと御ご

後のちよよ志しととぐぐみみととくくままつつ家か後のち堅かたおおおおるる

ももおおくくりりりり相さう志しとと知ちくくああれれを

先まへよよゆゆ一ひとりりめめんんととままれれももゆゆととまま後

おおももひひくく後のち堅かた流りゅうととままらら強いくくああれ

と先^まにゆ^り——^し安^{やす}友^{とも}討^う馬^ま書^しけ^り事^{こと}を

ま^まま^ま感^{かん}懐^{くわい}を

大坂^{おさか}御^ご陣^{じん}の^の後^ご

白^{しろ}漣^{ぜん}殿^{でん}伏^ふ見^みよ^よと^とひ^ひと^と陣^{じん}中^{ちゆう}伏^ふせ

の^の首^{くび}と^と感^{かん}——^しゆ^ゆひ^ひめ^めと^とわ^わく^く英^{えい}念^{ねん}

ゆ^ゆふ^ふけ^け時^{とき}を^をぬ^ぬ依^い渡^{わた}ち^ちい^いと^とく^くけ^け英^{えい}

令^{れい}い^いと^とふ^ふも^もら^ら御^ご感^{かん}書^{しょ}よ^よあ^あつ^つゆ^ゆ——^と

なり^{なり}け^け事^{こと}と^と井^い大^{だい}炊^ひ取^とれ^れと^と志^しれ^れ

と^と後^ごは^は戸^こよ^よ 還^{かへ}御^ごの^の村^{むら}

白^{しろ}漣^{ぜん}院^{いん}殿^{でん}所^{しよ}代^{だい}え^えと^とひ^ひ領^{りやう}地^ちと^と給^{たま}り^りま^ます

の^のゆ^ゆ——^しゆ^ゆひ^ひめ^めと^とわ^わく^く英^{えい}念^{ねん}

上^{うへ}野^の小^こ本^{ほん}城^{じやう}よ^よと^とひ^ひと^と領^{りやう}地^ちを^を取^とり

元^{もと}和^わ九^く年^{ねん} 御^ご上^{じやう}洛^{らく}の^の時^{とき} 白^{しろ}余^よ院^{いん}

義^ぎと^と御^ご奥^{おく}方^{かた}の^の番^{ばん}と^と仕^しと^とむ

寛^{かん}永^{えい}十^{じゅう}一^{いち}年^{ねん} 老^{らう}後^ごと^とら^らに^にわ^わり^りと^と御^ご

高^{たか}浅^{あさ}ゆ^ゆと^とら^ら

同^{どう}十^{じゅう}九^く年^{ねん} 二^に月^{げつ} 二^に百^{ひゃく}小^{せう}元^{げん}と^と歳^{さい}七^{しち}十^{じゅう}八^{はち}

法^{ほふ}名^な宗^{そう}祐^{ゆう}

正勝

牧

森右衛門

生國尾張

信長より法不病死歳七十八

法名休庵

長正

大坂門下郎 生國同前

大指現より一法之を

元龜三年之方原御陣此時先手

柳原小平冬より一属一いふと我

大より一旅をかきつりこらまらり

たふさしと敵を首をとらん

時り廿羽六丈又酒井白丸御地あり

濱松の城より引入る後城中に

死せし歳百十一

長勝

又十郎 後より大坂門と改

生國同前

大指現より一法之を

柳原河内陣乃時大小戦く首級

と地より時り十六歳又後方へ流

長重

落して瀧川一益より流る天目山小
世々奇村首級と始りあり一益守野
に入ら後まことゆり

大指規より津人等々時より二十九歳

相列小田原御陣乃時内使番と流る

助右衛門 生國茂流

安長十一年

右衛院殿より流る人等々は時より十回歳後より
將軍家より流る人等々は時より十回歳後より
事々ゆり

勝秋

三郎兵衛 生國尾張

寛永六年

將軍家より流る人等々

家乃紋丸の内櫓

しるし

親政

升園

次郎丸清門

世國近江

淺井佐前守より法ふり乃ちり

いざなれ

大指規より法より

法名八曲

親義

猪共衆 出國同前

大指現より決り一たぐりする

安長二年 約命よりり

右酒院殿より津へしつとす川原

同九年下総へ高師被けり

市介村中里村二ヶ所領知を給ふ

大坂安慶御陣より修平御陣の時

濃列和政よりとひく病死

法名道及

親信

猪共衆 出國武勇

大坂安慶御陣より父親義と相討り給ふ

高城乃後伏見の城よりとひく

右酒院殿より湯へしつとす川原

志く後治城を給ふ決り

將軍家ノ一ノ流ノ一ノノノノ

家乃紋表梅じゆめ

魚後 いさご

丹後守 たんごのし

某

紀伊守 きののし

某 あま

佐前守 さきのし

勝後 かつご

播磨太 はりま

山内 やまうち

為後

石見守

長後

初北名を橋内 山城寺 生國を以
いとけなりあり 一より依く本承頼より
はく之を後江列と後落の時即後等
あやしく是を返とびとまの付志

かふまのまのた六人長後も一人
なりせりあまを江列六人元
義頼甲賀郡石部下野守が館より
石部をてこれり流之と城をかく
一城をぬく志と相もたに古後
佐長あまを聞仇久居父子と志と是
とせめさしむ時より六人ちとを合せ
とと流るしてぬせきたる仇久間
せめ落と事あつとを共を引て

取須威状をよと申志れども其状
紛失と承傳りし後其志を承傳り

こゝろに於ての趣よ

先子に列石部館に於て張對位長
及確執越お朝念に小波井没落之
後依久間父子帥大軍攻石部城按
善提寺城に石部堅固お抱牛吉方
儀抽軍力較石部林寺然之介首其
時異干化と威状後九月朔日

七月十三日蔭城家自持十一ヶ所之付
城長後等破桐忠お討敵に度也此城
之時信守の正干信樂敵降踏之追私
正事死而忠信樂去し趣聊
失念今我齡及八十少命不可久也
外病床然り成南來後世に契物故
改書之加判紙筆認志甚高定徳之
榮不能巨病以之傳之

極月廿四日

兼須判

山平山城書

石部城中兵糧乏一人皆晴松此而
と侍婦おんこをすくりにまねり
りり妻子と引奥一とむうに
城中とあく倅が國より逃く依る者
が共られと去るに石部が嫡男をたぬ村
二男をらん殿して夫を放ち敵を撃
つとこもよらうとく殺百人追懸来
時より石部一族とむい六人れ共も

之一金せ好せぎ我ひ逃来りとの殺
十人と付く事ゆへに倅が女又
若弟禎修守の人おかく志く國氏
あまを殿ふぬり六人れ若とりて
晴とくふふ来り之あまは代碎しとる人
しもふふたに志く去ゆく後柴田
修理太史勝家より侍るく三子ふれ
地を領一鉄炮六十挺を敵り家老の
列よりおる侍長より侍る

東濃合戦の時安養寺様へ
今と安養寺が子孫今松平相摸寺
家一あり

采田威之の後中村の村長秀之

法之助地并に決地同心物此おし

秀吉とありあり知れぬなり

恩云とありあり

長秀卒一と後志づと地長秀

秀政が孫は高石とあり秀吉あり

りて旗下り秀吉と地長秀

と後之位下と叙一山城守と信と秀

時長後が館入り入御あり

大権現をまつと思云とあり

相殺多あり

関ヶ原陣のときとあり大坂ありあり

よりりてとのけと敵討とありあり

たり取りありありと没収せしありあり

五年此昔ありありとありあり

洛陽より信後
友卿下河内洛陽の邊に謁見し
し時より思ふ云と云くは進御
兼井より酒肴を奉る
享長十二年十二月廿二日
年一
歳六十一法衣紹春

信後

友卿 生國寺に

若子此時宋國勝家より信人等
信田右衛門尉より信人等
乃列より信人等
教度軍切あり
信後日育あり
若子と云くは信後より
養育あり
享長十二年十月廿六日
病死
日十 法石紙林

幸俊

紀伊守 為髪志く道越と号せ世國
越前

実者友を信俊の二男なり

秀吉とよし秀頼より

元和五年大坂没落此後幸俊山林

隠す父の仇をりり早速國東城を

京師より征す

同七年淺野信与守を交れ久しき

宗俊

八尾 世國守に

実者友を信俊の二男

安永六年十歳より依見より

大権現と号しをりり同守國東

御下向のとき信守とけ年江戸小

をひく

白徳院教り存錫（い）一（い）つてまづる（い）後（い）

大指現よはくしそまのり

同十年踰別よをひく（い）紙地を（い）

大指現よはくしそまのり

宗俊の名字を書きし

御朱印に載せし節本多

上野公成漸集人正安友常可相在に

いし御自筆の書とまふらゆ

あふ是とひく子孫に承せし

こゝに教書の紙知不勢納不はつきつ友に

守向ふ

大坂右度御車小後府くはし信守して

永丹右をまはし延り御

元和二年此秋江戸よ信

白徳院教りしはくしそまのり信守

紙よ届志く御書院書を信守

同九年

將軍教りしつてそまのり御書院書

七つとじ

寛永十一年八月廿八日
但馬守紀
余也

俊友

他志東門村
生國山城

紀伊新宮
紀伊新宮

威俊

角共来
生國同所

寛永十七年五月十日
病死

法名貞性

伊俊

他志東門村
生國武彦

寛永七年六月十日十一歳
少く

將軍家より
賜

同十七年三月
本友兼他志
紀伊守

志々御書院
書院書と法と心

目録

次第七 生國目録

寛永十九年六月十一日ハナシより病ハナシ死ハナシ

十八 法名常ハナシ蔭ハナシ

某

高瀬院

園城寺ハナシ法ハナシ仲ハナシ

家乃ハナシ紋丸ハナシの内ハナシ之成ハナシ橋ハナシ

改高

浅井義久清門

生國を以

三好

本を以列浅井氏なり家傳より
橋氏に移り並改よりして
浅井乃稱号を以けり三好氏
なり

交長二十年八月八日一死
歳六十五 法名専宗

忠政

之叔九馬 生國大和
寛永三年一死

將軍家一法之...
の称号...
同七年九月一日一死

之十 法名専宗

政威

之叔監物 生國備前
寛永七年一死

將軍家一法之...

家此級 井樹

